

2023年7月5日（水）

全国地方議会サミット2023

変わる社会・デジタル・あたらしい民主主義 ～激変する時代に対応する社会基盤としての議会を実装する～

全国初 県内全77市町村との

協働電子図書館 デジとしょ信州

長野県民は
だれでも
いつでも
どこからでも市町村と県による協働電子図書館運営委員会
委員長／県立長野図書館長 森いづみ※発表資料+「デジとしょ信州」関係資料：<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/collection/elibrary/shinshu-kyodo-library.html>

デジとしょ信州

1

「デジとしょ信州」とは？ 公共図書館による電子書籍の貸出サービス

2

● 使い方はシンプルな3ステップ



- 本棚は、どなたでもご覧いただけます
(スマホ、タブレット、パソコンから)

<https://shinshu-kyodo-library.overdrive.com/>図書館で発行する
利用IDでサインイン読みたい電子書籍を
一度に2冊まで
1週間借りられる期限が来たら
自動返却
返し忘れの心配なし

デジとしょ信州

2

「デジとしよ信州」とは？ 公共図書館による電子書籍の貸出サービス 3

- リアルな図書館で本を借りるしくみとの類似点（例）
 - 本を借りるのには、利用登録が必要
 - 基本的には、一冊の本を同時に一人が借りられる仕組み。予約ができる
 - 図書館が本を提供するためのコストを賄い、利用する本人は無償で借りられる

- 電子書籍ならではのメリット（例）
 - 図書館に行かなくても、365日24時間いつでも、本が借りられる
⇒ 遠くても、閉まっても、忙しくても、災害時で出歩けなくても、利用可能
 - 文字の拡大ができたり、オーディオブックを耳で聴いたりできる
⇒ 本の読みやすさがアップし、読書バリアフリーにつながる。

「信州 SDG s」の取り組みの一つに位置付けられています

デジとしよ信州

3

改めて：図書館は地域になぜ必要なんだろう？ 役割は？ 4

「公立図書館の任務と目標」（日本図書館協会1989年公表、2004年改訂）
公立図書館は、乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報を入手し、
芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場である。

2022年7月、国際図書館情報会議（IFLA[国際図書館連盟]年次総会）に世界の国々が集まり、
「ユネスコ公共図書館宣言」（1994年制定）を改訂

重点的な検討事項	改訂版のポイント
① 今日の情報社会における公共図書館の役割の再考 ② 社会的包摂の強化 ③ <u>地域文化へのアクセス、アーカイブの保存</u> ④ 全年齢において <u>学びや創造性を重視</u>	① 国連の持続可能な開発目標（SDGs）を支持 情報、識字、教育、および文化に関する領域で、持続可能な社会づくりに貢献 ② 知識社会における図書館の位置づけを明確化 知識社会＝知識が富の源泉となる社会 ※「 <u>公平（エクイティ）で人間らしく</u> 」という視点を重視

※株式会社未来の図書館 研究所「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）」（2022年9月27） <最終確認日：2023/06/16>
https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lib_compass/no6/

デジとしよ信州

4

改めて：図書館は地域になぜ必要なんだろう？役割は？

5

人間にとっての基本的な価値

- **社会と個人の自由、繁栄および発展**
 - ・十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力
- **民主主義の発展**
 - ・十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ること

地域の情報センターとしての図書館

- ・ユニバーサル・アクセスを実現するため、情報伝達の新しい手法を継続的に取り入れる
- ・知識の生産と情報や文化の共有・交換に必要な、市民の関与を推進するための、公共スペースを提供する
- ・地域社会を育むため、地域の要求を満たし生活の質の向上に貢献するサービス企画を支援する
- ・公共図書館のサービスは、年齢、民族性、ジェンダー、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分やその他のいかなる特性を問わず、すべての人が平等に利用できる

ざっくり
まとめる

公共図書館は、「誰も」が必要な情報にアクセスすることを通じて、民主的な社会の実現・地域の営みに参画できるよう、技術の進展に適應しながら、住民生活の質向上に貢献する公共財（公共サービス）

※株式会社未来の図書館 研究所「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）」（2022年9月27） <最終確認日：2023/06/16>
https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lib_compass/no6/

デジタル信州

5

ところが…？ 長野県の図書館事情と課題意識

6

もともとあった課題

- 人口 **2,098,804 人**
 (出典：総務省統計局「統計でみる市区町村のすがた2022」)
- 自治体数 **77** (市：19 町：23 村：35)
- 条例図書館未設置の自治体 **20** (町：6 村：15)
 - ・未設置率 **25%**
 - ・未設置自治体総人口／県総人口 **3.5%**
- 山岳が多く広い地域の北部に位置する県立図書館
- 各市町村の多様な文化・地域の特色を生かした、広域連携と格差の解消

新たに発生した課題

- 2019年、東日本台風による千曲市立更埴図書館の被災
- 2020年、第1回新型コロナウイルス緊急事態宣言下で県内7割の図書館が休館
 (全国休館率：92%)

広い長野県で
図書館サービス
を行きわたらせる
には工夫が必要



情報の形も、
コミュニケーションの
あり方も変わってきている

図書館、これまでどおりで
良いのかな…？

コロナ禍や甚大化する
災害を経験して…

何とかしたい！
しなければ！という
共通の想いが高まる

デジタル信州

6

コロナ禍で電子書籍サービスを導入する自治体が急増・・・長野県内では？

7

導入は単独では難しいという声が多く、自治体間連携に期待あり

「電子書籍貸出サービス」に関するアンケート

※対象：長野県内の公立図書館56館、実施：2022年1月、回答率：100%

長野県ファーストベンギン！
高森町本ともWeb-Library

● 導入検討状況：

- ✓ 導入済：1 館、 検討中：11 館、 未検討：40 館、 その他：4
- ✓ 「単独での導入が望ましい」としたのは 3 館

電子書籍サービスの導入の有無によって、格差が広がるのを避けたい

● 導入に向けての課題：

- ✓ 「予算の確保」約 9 割、「運用方法に関する懸念」約 8 割、「コンテンツに関する懸念」が約 7 割
- ✓ 「利用環境」や、そもそも「住民ニーズ」があるのか、という懸念も 5 割超

● 望ましい導入の方法：

- ✓ 「コンテンツの選定、利用方法の検討、利用支援のあり方等、市町村を越えた連携ができること」が 7 割
- ✓ 「試行的にサービスが行えること」や「複数の市町村が連携して導入できること」が 5 割超

デジタル信州

7

そこで・・・市町村と県による協働電子図書館ができないか？

8

図書館の役割は

すべての住民が自由に「情報」へアクセスできる基盤をつくること

学校図書館は

- ・学校の教育課程の展開に寄与
- ・児童生徒の健全な教養の育成

GIGAスクール
学校教育の
情報化

学びの
保障

インクルーシブ
教育

感染症・
災害対策

非
接触・
移動
削減

読書バリア
フリー法

3つの社会課題に
同時に向き合う手段の
一つが「電子図書館」

各自治体単独では
予算面、運用面での
ハードルが高い

市町村と県とが協働して電子図書館のサービスを構築

守り：書籍へのアクセスを保障

「感染状況」「災害」等になるべく影響されず、図書館サービスを提供し続ける環境をつくる

+

攻め：リーチを拡げる

「地理的条件」「生活スタイル」「特別な配慮の要否」等により、利用しづかった住民にサービスを届ける

図書館利用率
住民の3割程度
→残りの7割への
アプローチ！

デジタル信州

8

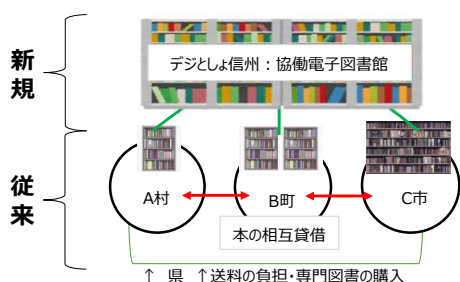
従来からの協力体制の延長線上に、新しい連携体制を築く

9

- 共通の課題を解決する方策として、協働電子図書館によって、「情報格差」の解消を図る。
- デジタル化で生じる「情報格差」も起こり得るため、広報や利用支援も協働で取り組む。
- 「誰一人取り残さない」「持続可能な地域・社会」を実現する方策として関係各所の連携を視野に。

解決策

- 「電子書籍サービス」を全市町村と県が協働して提供
= 住民サービスの拡充

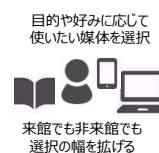


■ メリット

- ・ 蔵書の不足分の増強。付加価値のあるコンテンツで効果大
- ・ 紙と電子との組み合わせでスペース問題が軽減
- ・ 図書館が未設置でも電子書籍が使えることで学びの環境が強化
- ・ 潜在的な利用者層への呼び水となる
- ・ 読者層の拡がり、読書文化（出版流通）の発展につながる

■ 期待される効果

- ・ いつでもどこでも情報アクセス
- ・ 情報格差の解消へ、一歩前進
→ 学びの多様化・学び手の増加
→ 各自治体の活力増進に期待



デジとしよ信州

9

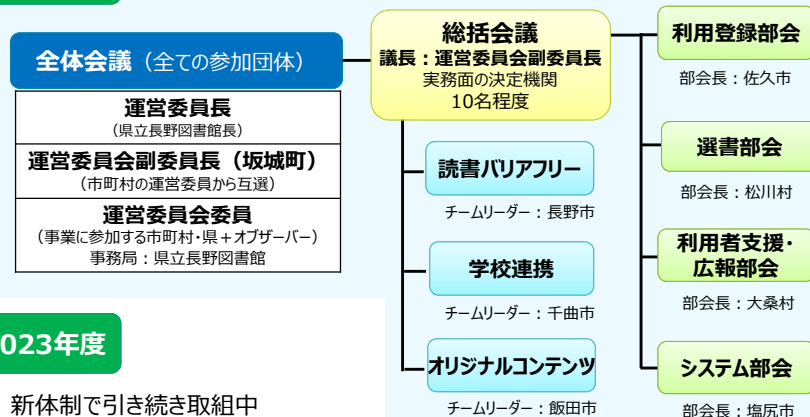
「デジとしよ信州」取組の工夫① 前例のない事業にDXを駆使し人的ネットワークで挑む

10

2021年度 長野県先端技術活用推進協議会
(所管：県DX推進課)
市町村と県による協働電子図書館協働構築研究WG

- ・ 協働運営を想定していなかった電子図書館システム
⇒ 出版社様、電子書籍サービスベンダー様のご理解・ご協力をいただきながら、DXの知見を踏まえ研究&議論
- ・ 質問への対応状況をメールで自動リマインドする等、多くの自治体に参加する検討環境を効率化

2022年度 市町村と県による協働電子図書館運営委員会



市町村・県から所属や役職を問わず、多様な立場の職員がオンラインのミーティングに参加。
・ R3年度※8か月間：のべ50回以上
・ R4年度：のべ100回以上

2022年8月5日
全自治体によるオープニング
セレモニーをオンライン開催



2023年度
新体制で引き続き取組中

デジとしよ信州

10

「デジとしよ信州」取組の工夫② 経費負担（+αの財源の獲得も視野に）

11



- コンテンツ費：市町村で分担・選書（均等割：人口割 = 1 : 9）
すべての市町村が均等に選書権を持つ
すべての自治体の住民が同じ本棚にアクセスできる
- 2022年度：市町村振興協会の宝くじ助成金
- 2023年度：負担金 + 宝くじ助成金
- 初期構築 + プラットフォーム費：県が負担（広域自治体の役割としての基盤整備）



2022年
夏のDigi田甲子園：
長野県代表の一つとして出場
⇒実装部門5位

デジタル庁「デジタルの日」
広報ポスターに起用
「徒歩0分。
図書館の近さが
本を身近にする」

デジとしよ信州

- 県内66自治体の106図書館・図書室が利用申込窓口を開設（窓口未設置の場合：電子申請で県へ申込）
→住民の皆さまに電子書籍を身近に感じていただける利用支援が実現

11

「デジとしよ信州」取組の工夫③ アウトプットが見える化し、その先のアウトカムへ

12

●利用者IDのしくみ：

- ✓ 市区町村コード、利用者生年、市町村・県の図書館利用カード番号から生成
 - 市町村ごとの住民の利用実態について、統計が取れる ⇒ニーズの把握ができる
 - 年代・世代ごとの利用動向が見えてくる ⇒プロモーションをするターゲット、選書方針への参考になる
 - リアル図書館の利用実態との比較（新たな顧客層の開拓状況）、相乗効果が確認できる
⇒県の電子申請を用いて電子図書館を利用している住民数も市町村に報告

●投資効率の向上への期待（アウトプット）

- ✓ 住民の図書館利用率、蔵書（電子書籍）の貸出回転率の向上

●顧客満足度向上への期待（アウトカム）

- ✓ 地域の活性化、課題解決力の向上
- ✓ 地域への愛着、幸福感の向上

エビデンスに基づき、図書館
の存在意義を示す



持続可能なサービス
にむけた財源確保

<留意事項> 貸出情報はビッグデータとして統計処理を行いサービス向上に役立てる
「図書館の自由に関する宣言」の趣旨に則り、個人のIDと貸出情報は紐づけしない

デジとしよ信州

12

「デジとしよ信州」の実績①（2023年5月末現在）

13

● コンテンツ数：21,200点

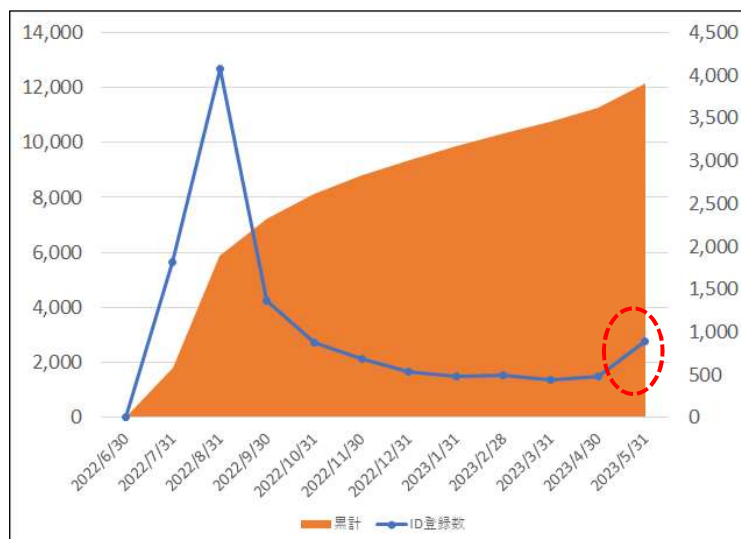
- 購入数：9,990点
- 青空文庫（無償コンテンツ）：
11,196点
- オリジナルコンテンツ数：23点

※2022年度：5回追加購入
コンテンツが追加→利用が伸びる傾向
特集棚の面出し→借りられやすい

● ID登録数（累計）：12,141人

- 県民の0.6%（まだまだこれから！）

※2023年5月の顕著な伸び：
佐久市の学校連携による一括登録



デジとしよ信州

13

「デジとしよ信州」の実績②（2023年5月末現在）

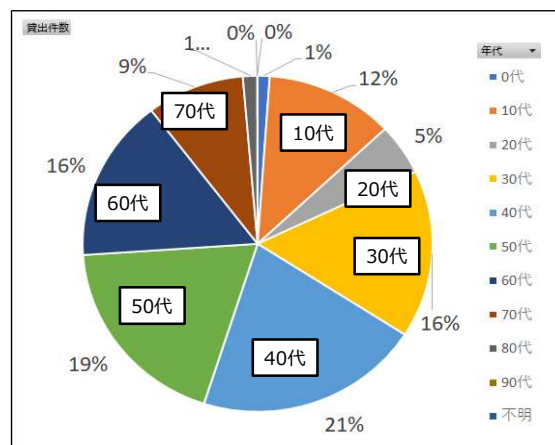
14

● 貸出数：67,512冊

- ✓ スタート時と比べ、やや落ち着くもののコンスタントに増加

● 貸出者年代：

- ✓ 40代が最も多く、全体の21%を占める。
50代：19%、30代、60代：各16%と続く。
 - 一般的に公共図書館の利用は、子どもとシニアに利用されるM字カーブを描く。
 - 電子書籍ならではの利用傾向で、図書館を利用しづらい現役世代に、リーチ。
- ✓ 10代も増加傾向。20代が多い自治体もある。
 - 小中高校、大学等との連携、子ども・若者支援策、広報の工夫によって、利用が伸びることが期待される。



喜びの声

- 蔵書コレクションが意外に多い
- 視力が低いので、拡大機能が重宝する
- 一度に2冊までだけ、返したらすぐ次が借りられるから、無限に読める（SNSより）

- 図書館に行ったり本を持ち歩く習慣もなかったが、隙間時間が読書タイムとなり、読書量が一気に増加。普段読まないジャンルにも気軽に挑める。
- 心配した読み具合は、文字の大きさや行間など、高齢者にも優しい。
- 蔵書が多彩。オーディオブックもいい。長く愛用したい。
- 身近なサポート役として、地域の図書館に期待。（新聞コラム・投書欄より）

14

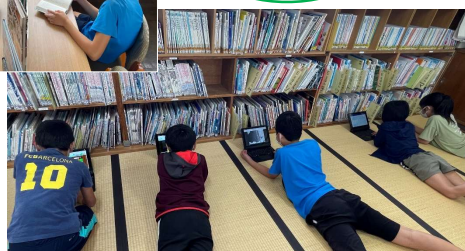
各自治体ならではの取組事例 ①

15

- **高森町**：学校との連携で、さまざまな学習に活用
 - 学校で地域学習に使う資料を優先的・重点的に電子化オリジナルコンテンツとして登録
 - 高森町立北小学校は、1年生で全員が図書館に登録し、3年生で全員がデジとしよ信州に登録
 - 紙の本も、電子書籍も、子どもたちが自発的に目的に応じて使い分けている

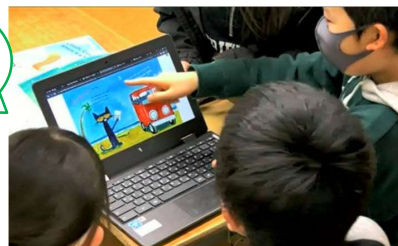


デジタルシチズンシップ教育にも有効



状況に応じてそれぞれのメディアの特徴を活かす

- **佐久市**：学校との連携で、英語の学習などに活用
 - 日本語訳された紙の絵本で、内容に親しみつつ、
 - 英語の本の読み聞かせで、**ネイティブスピーカーによる読み上げ機能を活用して練習**（小学5年）
 - 4校が統合して新しくスタートした臼田小学校で、デジとしよ信州のIDを一括登録



- **安曇野市**：リアル図書館を社会科見学の対象に
 - 図書館の利用登録を行い、デジとしよIDも発行
 - 学校主体での登録を、図書館がバックアップ

デジとしよ信州

15

各自治体ならではの取組事例 ②

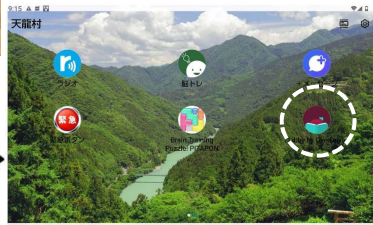
16

- **大桑村**：ハイブリッド図書館を地で行く
 - 大桑村図書館の開館（2022年9月）に合わせて電子書籍も同時スタート！



リアル図書館と電子書籍で相乗効果を目指す

天龍村くらし安心ICTネットワーク事業



- **天龍村**：図書館、書店へのアクセスが難しい地域・年代にこそ
 - 住民課と地域包括センターの連携で、**65歳以上の方にタブレットを配布**。「緊急」「ラジコ」などと一緒、「デジとしよ信州」のアプリ（Libby）をプレインストール！

- **生坂村**：「一步近い図書館」それぞれの人の自分らしいライフスタイルを大切にしたい図書館をめざして
 - 生坂村のような自然にあふれた場所で暮らしたいと考えた時、**利便性や物理的距離をデジタルで解決**して、「**住む場所でライフスタイルを我慢しない**」、最後まで「自分らしく過ごせる場所」を選択できる未来であってほしい。
 - **地域資料の電子化**（村誌・郷土の偉人の漫画）
 - **図書室のWi-Fi利用の整備**



自治体を越えて共通する課題を解決しつつ、固有の課題解決のために独自の視点で活用！

デジとしよ信州

16

「デジとしよ信州」のコンセプトと重点取組

17

- 全ての県民が、居住する地域や世代の違い、障がいの有無等にかかわらず、いつでも、どこからでも、無償で、必要とする情報(電子書籍)にアクセスできる環境を実現し、持続的に発展させる
- 個々の市町村が責任と目的を持ち、公共図書館や公民館図書室、教育委員会等が中心となって、それぞれの必要に応じて主体的に取り組む

共有財を一緒につくり、それを活用して、それぞれにとっての個別最適な姿、課題解決をめざす

紙媒体と電子媒体のベストミックス

デジタルへの置き換え、同一のものへの集約ではなく、一人一人の住民、個々の市町村にとって「選択の幅」を広げる

すべての住民にとっての『読書・学びの情報基盤づくり』と『公正な社会づくり』に寄与する

重点取組事項

読書バリアフリー

アクセシブルライブラリーの浸透

学校連携

各自治体・学校の教育方針に沿って

オリジナルコンテンツ

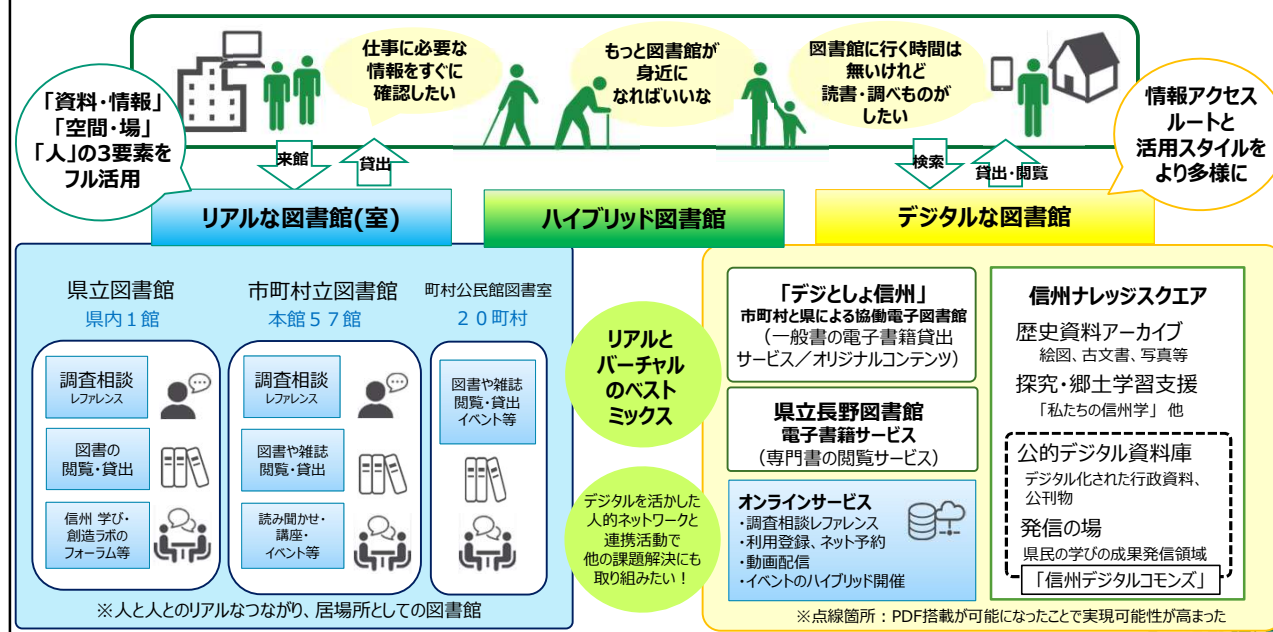
地域文化の継承・郷土の学び

デジとしよ信州

17

一人一人の学び・読書環境が最適化＝ウェルビーイング・公正な社会の実現へ

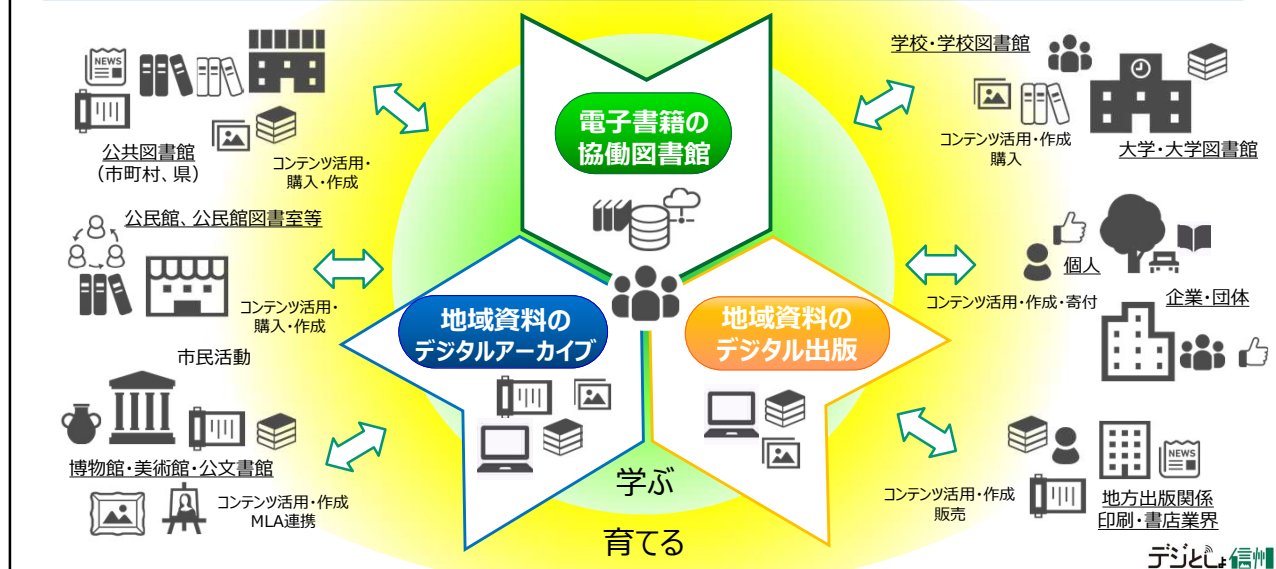
18



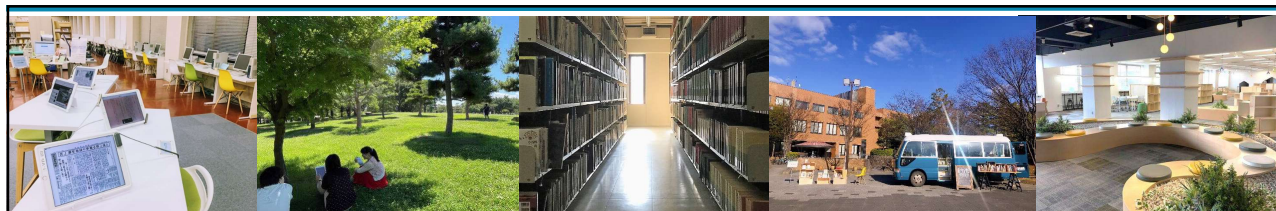
18

さらに大きな枠組みで共有していきたいビジョン： 学びや読書に関わるすべてのステークホルダーとともに、地域活性・共存共栄をめざしていきたい

みんなで学ぶ・みんなで育てる「all信州電子図書館」⇒ 地域文化の創造・地方創生



19



「ここに暮らしていて良かった」と思える 持続可能なまちづくり・地域づくりのために

社会の変化・技術の進展への対応、不易流行によって
図書館は地域の人々に寄り添い、共に成長していきます

ご清聴、ありがとうございました

デジタル信州

20

参考：デジとしよ信州と学校教育との連携による活用例（令和5年度版）

21

	同じコンテンツをみんなで	ひとりひとりが個別のコンテンツで	
	※同時アクセスの制限がないコンテンツ：国内児童書読み放題コンテンツ、オリジナルコンテンツ（信州の資料）、外国の出版社、青空文庫が利用可能。 ※モニター等への投影ができるコンテンツ：オリジナルコンテンツ（信州の資料）、外国の出版社、青空文庫が利用可能。	※個人の端末を使って、ひとりでデジとしよ信州のコンテンツを使う場合は、すべてのコンテンツが利用可能。	
授業の中で	○英語の学習に ・読み上げ機能がついた絵本などを教室のモニターに映し、ネイティブの発音や表現の学びに。 ○各教科の学習に ・児童書読み放題の作品をみんなで読み、感想を述べあう、歴史人物や職業について調べるといった活用が可能。 ・教科の学習に関連した信州の資料や青空文庫の作品から、時代背景や科学的な事象を学びあうといった活用が可能。 ○ふるさとの学びに ・県内の自治体が発行する資料や、貴重な信州の資料を使って、グループ等での学習が可能。	○国語の学習に ・作品や作者、テーマへの関心を深められる関連資料の活用が可能。 ○英語の学習に ・読み上げ機能がついた外国語作品は、発音や表現の学びに。 ○各教科の学びや総合的な学習、図書館活用の場で ・さまざまな教科で、調べ学習や参考として活用できるコンテンツが充実。 ○そのほか、図画工作や家庭科学学習にも ・入門書や実用書を用いて、作品の制作や実習の参考に。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が個別に公共図書館で利用登録するほか、学校で取りまとめて一括登録する事例も出てきている。 学校連携のフローや一括登録の確認文書のひな型を作成。デジとしよ信州をきっかけに、リアルな図書館への関心も高めていきたい。 英語の授業でナレーション付きの電子書籍と紙の絵本を併用するなどベストミックスな授業の試みも。 学校図書館のIDを活用する方法も検討中。
授業以外の場面で	○読書の時間に ・児童書読み放題のコンテンツは、同時アクセスが可能。待つことなく借りられ、読書のモチベーション維持に。 ○そのほか、クラブ活動や委員会活動に ・練習メニューや企画を考える時の参考として。	○読書の時間に ・リラックスタイムに、好きなコンテンツを借りて楽しむ。 ○余暇活動や家庭学習に ・宿題や長期休業中の課題の参考となる資料が充実。	
配慮が必要な場面に	○紙の本を読むことが困難な場面で ・文字を認識することが困難な子どもに→読み上げ機能がつき、読まずに読書を楽しめるコンテンツが充実。 ・視力が弱かったり、文字や絵の認識が困難な子どもに→拡大機能を活用することで、文字や絵の認識を支援。 ○外国籍の子どもに ・英語をはじめとした多言語のコンテンツが利用可能。英語で読む日本の漫画などは、文化を理解するきっかけに。		

デジとしよ信州

21

参考：紙媒体の本も電子媒体の本も同じプラットフォームで探せる

22

- 県内公共図書館の蔵書データベースと電子書籍を一括で検索できる

The screenshot shows the 'Shinshu Book Search' website. At the top, there's a search bar and navigation links. Below, a search for '世界の郷土料理事典' (World Regional Cuisine Encyclopedia) is shown. The results list various libraries, with 'デジとしよ信州' (Digi & Shio Shinshu) highlighted in red. A detailed view of the book is shown below, with the '電子書籍' (e-book) option also highlighted in red. A speech bubble points to the '電子書籍' option, stating '書店さんの在庫情報に繋がらないか検討中' (Checking if it connects to bookstore inventory information).

22

参考：「ユネスコ公共図書館宣言 2022」

23

- **社会と個人の自由、繁栄および発展は、人間にとっての基本的な価値である。**
このことは、十分に情報を得ている市民が、その民主的権利を行使し、社会において積極的な役割を果たす能力によって、はじめて達成される。
建設的に参加して民主主義を発展させることは、十分な教育が受けられ、知識、思想、文化および情報に自由かつ無制限に接し得ることにかかっている。
- **地域において知識を得る窓口である公共図書館は、個人および社会集団の生涯学習、独自の意思決定および文化的発展のための基本的条件を提供する。**
それは、商業的、技術的、あるいは法的な障壁に妨げられることなく、科学や地域に関する知識をはじめとする、あらゆる種類の知識へのアクセスを提供し、知識の生産を可能にし、かつ共有することによって、健全な知識社会を支える。
- 図書館は、どの国においても、とりわけ開発途上国において、教育を受ける権利、および知識社会や地域の文化生活へ参加する権利をできるだけ多くの人々が享受しうよう支援する。
- この宣言は、公共図書館が教育、文化、社会的包摂、情報の活力であり、持続可能な開発のための、そしてすべての個人の心のなかに平和と精神的な幸福を達成するための必須の機関である、というユネスコの信念を表明するものである。
- したがって、ユネスコは国および地方の政府が公共図書館の発展を支援し、かつ積極的に関与することを奨励する。

※株式会社未来の図書館 研究所「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）」（2022年9月27） <最終確認日：2023/06/06>
https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lib_compass/no6/

23

参考：「ユネスコ公共図書館宣言 2022」

24

● 公共図書館とは（一部抜粋）

公共図書館は、あらゆる種類の知識や情報をたやすく入手できるようにする、**地域の情報センター**である。
それは知識社会の不可欠な構成要素であって、**ユニバーサル・アクセスを実現**し、すべての人に情報の意味のある利用を可能にするという責任を果たすため、**情報伝達の新しい手法を継続的に取り入れる**。
また、**知識の生産と情報や文化の共有・交換に必要な、市民の関与を推進するための、公共スペース**を提供する。

図書館は地域社会を育むもので、積極的に新しい利用者にも手を差し伸べ、実効ある聞き取りによって、**地域の要求を満たし生活の質の向上に貢献するサービス企画を支援**する。

公共図書館のサービスは、年齢、民族性、ジェンダー、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分やその他のいかなる特性を問わず、**すべての人が平等に利用できるという原則**に基づいて提供される。**理由は何であれ、通常のサービスや資料の利用ができない人々に対しては、特別なサービスと資料が提供されなければならない。**

いかなる年齢層の人々もその要求に応じた資料を見つけ出せなければならない。コレクション（蔵書）とサービスには、**伝統的な資料とともに、あらゆる種類の適切なメディアと現代技術が含まれていなければならない。**

● 公共図書館の使命（一部抜粋）

情報、識字、教育、包摂性、市民参加、文化に関連した以下の基本的使命を公共図書館サービスの核にしなければならない。
基本的使命を通じて、公共図書館は持続可能な開発目標（SDGs）と、より公平で人道的な持続できる社会の建設に貢献する。

デジタル技術を通じて、情報、コレクション、およびプログラムの利用を対面でも遠隔でも可能にして、いつでも可能な限り地域社会にサービスを提供する。

※株式会社未来の図書館 研究所「ユネスコ公共図書館宣言 2022（仮訳）」（2022年9月27） <最終確認日：2023/06/06>
https://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lib_compass/no6/

24